

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 国体開催に向け本格始動 - 2016年に「いわて国体」が開催されます -
- 6 奥州市の将来を語り合おう - 平成 25 年度 市政懇談会開催報告 -
- 10 I L C 希望のひかり
- 12 8 月から受給者証・保険証が新しくなります
姉妹地区土地区画整理組合・白鳥地区住民協議会が受賞
- 13 結 - ゆい - ~ 30 の地区振興会による協働のまちづくり実践事例 ~ 「伊手振興会」
- 14 市の出来事から
- 16 まちの話題
- 18 つながれ 広がれ NPO の輪「獅子・ほたるの舞う里 梁川地域協議会」
- 20 子そだて広場
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 21 消費生活相談 Q & A
わが家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー「水沢南小学校」
- 22 キラリ人輝く
夢トーク
- 23 クラブ紹介「水沢商業高校 <今月の表紙>
珠算・電卓部」
ぼんたのつぶやき
- 24 くらしの情報
- 28 奥州遺産「ホタル川」(前沢区)



第 26 回全国ラージボール卓球大会(日本卓球協会主催)が、6 月 27 日から 30 日までの日程で、市総合体育館(Zアリーナ)と江刺中央体育館を会場に開催されました。大会には、全国のラージボール卓球愛好者約 2,200 人が出場。写真は、地元「水沢まどか」のメンバーが、熱戦を繰り広げる様子です。ラリーの応酬もあり、真剣表情な中にも楽しくプレーする姿が印象的でした。



自然栽培米などを真空パックに包装。使い切れる小分けのサイズで販売

胆沢区南都田と若柳の境界付近、まごころ病院の近くに自宅を構える阿部知里さん。稲作を中心に農業を営み、米の 6 次産業化に取り組んでいる。転作田には、枝豆やホウレンソウなどを作付け。現在、地元スーパーの産直コーナーなどで販売を行っている。「東日本大震災を経験し、人とのつながりを再認識した」と知里さんは語る。新たな人とのつながりと労働力を求め、昨年からはワーキングホリデーの取り組みを始めた。現在、胆江農村ワーキングホリデー協議会に所属。ことしの 9 月も、県内外から大学生が訪れる予定になっている。高校時代は農業クラブで県の会長も務め、県内外で開催される会議や各種大会に飛び

回った。卒業後は東京で会社勤めをしていたが、30 歳を越えた頃、母親の強い希望で胆沢へ U ターン。中学の時に父親を亡くしていたこともあり、帰郷とともに農業の道へ。「農作物を作る上で、農業を使用しなくなかった」と語る知里さんは、自然農法に積極的に取り組んだ。付加価値を付けた米のブランド化を目指し、コンクールなどに数多く出品。「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」では、3 年連続を含む 5 度の特別優秀賞に輝いた。「消費者の支持を得なければ、付加価値を付けても経営は成り立たない」と知里さんは力を込める。これからも、全国の仲間を刺激され、新たな販路拡大を目指す。



人との交流を大切にしながら 農業をビジネスへ

阿部知里さん(47歳)
胆沢区若柳字要害



あべ・ちさと © 昭和 41 年胆沢区若柳字要害生まれ。阿部自然農園の代表を務め、水田 12ha を経営。米・食味鑑定士、水田環境鑑定士の資格を持つ。母親との 2 人暮らし